

四つ郷屋地区 海岸の植物について

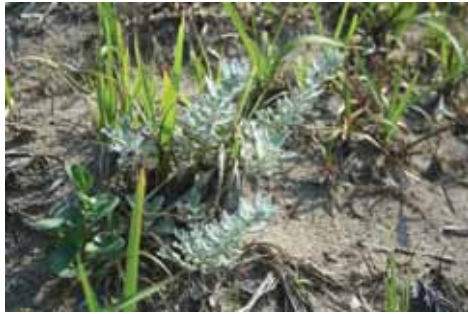
1. 海岸の植生の特徴

海岸は植物が生育するには劣悪な環境。その特殊な条件に耐えられる植物が生育している。

- ①乾燥(砂地) ②風(塩害) ③夏の高温 ④冬の低温

2. 主な植物

○貴重な植物



シロヨモギ(キク科) 新潟県:絶滅危惧Ⅰ類 環境省:指定なし



スナビキソウ(ムラサキ科) 新潟県:準絶滅危惧種 環境省:指定なし



ハマゴウ(クマツヅラ科) 新潟県:準絶滅危惧種 環境省:指定なし



(注: 写真はすべて 2013年7月26日 四つ郷屋にて撮影したものである。)

砂丘ミニ知識

砂丘は河川から運ばれてくる砂と日本海から吹き付ける強風によって形成される。そのため、大河川の河口の近くに形成されることが多い。

風で砂が運ばれることによって砂丘は移動しながら発達する。風上側は傾斜が緩く、風下側は急勾配になることが多い。植生が発達することで砂丘の形状が安定する。砂丘は意外と含水量が多い。佐潟は砂丘湖である。



ハマナス(バラ科) 新潟県:絶滅危惧Ⅱ類 環境省:指定なし ※植栽の可能性あり。



※ 海岸の植物は汀線からの距離と比高で生育する場所がおおむね決まる。

新潟県は海岸の施工率が日本でトップクラスであり、自然海岸がほとんど見られない。その結果、海岸に生育する植物が非常に減少している。海浜性の植物というのは基本的に海浜にしか生育しないので、貴重種に選定されていなくても、保全する価値が高いと思われる。

○よく見られる植物



ハマヒルガオ(ヒルガオ科)



ハマニガナ(キク科)



カワヨモギ(キク科)



ハマエンドウ(マメ科)



コウボウムギ(カヤツリグサ科)



ヤマアワ(イネ科)



ナワシロイチゴ(バラ科)



アキグミ(グミ科) (別名ハマグミ)



ハマニンク(イネ科)



ギョウギシバ(イネ科)

○外来種



コマツヨイグサ(アカバナ科)



オニハマダイコン(アブラナ科)



ケカモノハシ(イネ科)



ケカモノハシの穂は2つにわかれる。



アメリカネナシカズラ(ヒルガオ科)

